

同志社大学通信

# ONE PURPOSE

FOR BETTER COMMUNICATION

特集／自分らしく輝くために  
同志社人訪問／フェミニストカウンセリングの先駆者に聞く

**No.119**

1999 JUNE

DOSHISHA UNIVERSITY



1999

NO.  
119

JUNE

## COVER STORY

[ 表紙の人 ]



シーズにボロシャツとラフな装いで友人と談笑する姿は、キャンパスのごくありふれた光景だが、彼女にとっては、普通の大学生としての時間を楽しむ大切なひとときなのかも知れない。今回表紙中央を飾る彼女は、日本トップクラスのスキーマー・佐藤未佳さん(文学部2年次生)昨年、北海道から同志社に入学。一年目ではきなりインカレGS大回転、全日本学生選手権、スーパーG全日本選手権大会(2回)と、4つのタイトルを手にした。

これから秋までは筋力面を養うトレーニングの多忙な日々がづく。さすがに昨年は北海道とは比べものにならない夏の猛暑がこたえたようだ。そんな彼女を支えているのは、3年後アメリカのコロラドで開催される冬期オリンピック出場の夢。今年4月のコロラド遠征は、そんな彼女の想いをさらにかき立てたに違いない。

## C O N T E N T S



### 特集

大学生活の自由な時間の中で  
“自分”を探す

# 自分らしく 輝くために

2

データでみる同大生の  
1998年度就職戦線

7



同志社人訪問 井上 摩耶子さん

フェミニストカウンセリングの  
先駆者に聞く

9

キャンパス探検隊

同志社のこと。もっと知りたい、知ってもらいたい。 12

ゼミ・ゼミ おじゃまします 商学部：植田 宏文ゼミ  
ディベートを通して現代社会が抱える  
経済諸問題を論じる 13

1999年度大学予算について 15

ONE PURPOSE コメンタリー 17

キャンパスニュース 19

先生の推薦する VIDEO & BOOK 23

私と「仕事」 25



# 自分らしく輝くために

「より偏差値の高い大学」を目指す受験体制の中で、私たちは、教わること、目標を与えられることに慣れ過ぎてきた。悩むことも、まして立ち止まることもないまま大学へ進む。

そしてキャンパスに立ち、ふと振り返ってみると、

自分が何のために大学に入ったか。自分はどこに行こうとしているのか。そんな自問の中に行むことになる。

大学生活の中では何ができるのか。

とかく均質化しがちな社会の中で、自分らしく生きるというのは、どういふことかについて語り合ってもらった。

## 迷

いや疑問を抱いたら  
立ち止まることも必要だ。

岸 学生時代は自由にも何でもできる時代  
と思います。ところが、この自由さの中で自分  
が本当にしたいことが何なのか見出せず不安  
に感じている人も多いようです。そこで今  
日出席いただいたみなさんには、日頃感じて  
いること、あるいは今まで考えてきたことを  
通して、生き方について語り合っただけだと思  
います。

指方 僕はまた自分というものが分からな  
いし、何をしたいのかも確立途上の状態です。  
ちなみに僕は受験生活に疑問を感じ、高校  
二年生で中退しています。しばらく働いたり  
していたんですが、もう一度勉強したくなり  
高校に再入学しました。

玉崎 私も浪人して大学に入りました。高  
校時代は、友人と呼べる友人もおらず、クラ  
ブ活動はしていたけれど、終わればサッサと  
帰る生活をおくってききました。浪人している  
ときもそんな空虚な生活は変わりません。自  
分は何をすればいいのか、何をしたいのか分





からないままに時間だけがたちていく。友人に誘われ、老人ホームへボランティアに出かけたりしましたが、介護活動をするわけでもなく、お年寄りと話をして過ごしました。その頃は、まだ大学に入って社会福祉を学ぼうなんて思っていなかった。

中根 僕の場合は、姉が障害を持っていて子供の頃から福祉施設に出入りしていました。そんなこともあって、将来は社会福祉士になりたいと思っています。

岸 早稲田大学からの交流学生として、同志社大学へ来られているのでしたね。

中根 大学二年生のとき、社会福祉の力キキラムが充実している同志社大学との交流



学生制度があることを知り、今春からこちらにまいりました。

田中 指方さんは高校二年で中退したと言いましたね。何かやりたいことがあったのでしょうか？

指方 いえ、ただ現状から飛び出したい。何とかこの流れを断ち切りたいという一念でした。目的や意味がわからないまま、主体性を失って流されていく、受験勉強に明け暮れる生活が耐えられなかったんです。

玉崎 私も浪人時代、かなり時間をかけて自分は何をしたいんだろう、何をすればいいんだろうって悩みました。漠然とボランティアという福祉をやってみたいと考えていたのですが、老人ホームを訪問しても、自分の中にあまり熱いものは感じられなかった。

白井 そういつ空白の時間が、僕の場合は大学に入ってからやってきました。大学での二年間はあつという間に時間だけが過ぎ去ってしまい、このまま大学生活を続けてもきつと同じように時間が過ぎていくだけだと思う。何かやりきれない。欧米の大学生が勉

勉



指方 周平さん  
【神学部 四年次生】

二年生の夏にワチハイクで五十二日間日本一周を果たした。どんな人とも理解し合えるという自信は大きな宝物になった。牧師志望。



玉崎 陽子さん  
【文学部社会科学科 四年次生】

Haablat for Humanity (世界中の居住環境の改善を目指す国際NGO団体)を活動母体に、主にフィリピンで家づくりを汗を流した。国内では、京都で、野宿生活者の問題に取り組む「夜回りの会」に参加している。



中根 正隆さん  
【文学部社会科学科 三年次生】

早稲田大学からの交流学生として本学では社会福祉学を専攻。二つの大学を大いに活用しようとする意欲に学ぶ心が高い。



白井 邦明さん  
【文学部文化学科 三年次生】

留学生交流会に所属し、留学生と積極的に交流を深める。一回のヨーロッパ旅行からスペインへの憧れが募り、昨年休学してスペインへの語学留学を経験。旅行者資格の取得を目指す。



石川 純子さん  
【法学部政治学科 四年次生】

大学入学とともにアイセックに入り、インド・スタディーツアーを二年間かけて準備。自らも三週間インドで過ごした。国際政治学に興味を持ち、大学院進学を志す。





って言い出すんです。聞いてみると、彼女の生活は一日中勉強漬けらしいんですね。彼女は勉強がしたくてそういう生活を選んだのだからしかたがないけど、目的のないまま勉強漬けの生活を送るより、少し時間をかけてもいいから自分の意志を確認する時間が持てる方が幸せですね。

## 自

分が生きるべき  
目的を見つける。

そのためには  
とにかく歩き始める  
ことが必要だ。

岸 時間をかけて自分を探す。確かにそれは意義のあることだと思います。それでみなさんは、自分なりにやりたいことが見つかったのでしょうか？

指方 高校三年生のとき、岡山県にある八ッ森病施設を訪れる機会がありました。そこで見た光景に僕は深い感銘を受けたんです。強制的に社会から隔離された施設で暮らすある老人の表情が、不思議に輝いているんです。家族や社会から見捨てられてもなぜ



司会  
岸 基史  
【経済学部助教授】



アドバイザー  
田中 英一 さん  
【総合政策科学研究科】一年次生

一九九五年文学部文化学科心理学専攻卒業。学生時代は相模部に所属。全国優勝を果たす。現在、京都府立鳥羽高校教諭として相模部の指導にもあたっている。一方、自らも現役選手として活躍中。今春四月大学院へ入学。



あんなにいきいきと暮らしているんだろって考えました。聞くとは彼はクリスチャンだということでした。僕は、牧師の家庭に生まれ、洗礼も受けていますが、これをきつかけにあらためて信仰について考えるようになり、神学部に入りました。

玉崎 私は、大学に入り社会福祉学を専攻しました。でも、講義を聴くだけじゃなくて何かをしたかった。一時期植林のボランティア

アなども考えてみたのですが、まだ何か違うんですね。そんなとき先輩からやってみないかと誘われ参加したのが、Habitat for Humanity という国際NGO団体なんです。発展途上国に出かけて行って家をつくるのですが、途上国の人たちにとって家は家族を守るお城のようなもので、本当に大切なんです。Habitatの活動を通して、やっと自分がやりたかったこと、これならやっていると、いつもに出会えました。

石川 みなさんのような体験はありませんが、偶然テレビで観た映画をきっかけに私も





国際社会に目を向けるようになりました。舞台は中央アジアにあるタジキスタンという小さな国でした。映画はこの国が内戦による政情不安で、急速に生活が悪化していく様子を描いていました。以来、突然ひとつの国を不幸に陥れてしまう国際政治というものに強い関心を持つようになりました。大学ではアイゼクに所属しています。活動を通じて国際NGO団体の方々と接触することも多く、みんなで議論を戦わせることもあります。

す。そんなときは、ああこれが大学なんだと実感します。

白井 僕は活動らしい活動はしていないけど、海外での経験を通じて得るものは多かった。たとえば欧米人は個人主義だとされま。私たちもそう認識しています。でも彼らは個室に入るときも決してドアを締めきらない。誰でも入れるように少し開けておくんですね。他人の存在を受け入れて、はじめて自分の存在も尊重されるという欧米の個人主義の現れのように思います。今、西洋史を専攻しているんですが、海外で得た経験というか、外国の人の見方、考え方というものが何か生かせるように感じています。同時に、自分の生まれた日本という国、日本人の考え方が好きになりました。

田中 私の学生時代は相撲漬けで、みなさんのように海外旅行に出かけることも許されなかつた。ところが最近、相撲の国際普及活動の一環として海外を訪れることが多くなりました。主に欧米なのですが、日本に比べてスポーツの地位が高いというか、社会への根付き方が違つのに驚きますね。

玉崎 私の自宅の近所に南米の人たちが集まる「ロ」があるんです。彼らは陽気で、よく集まって踊っているんです。私もその輪に



入って、踊りを教わりました。そしてお返しに盆踊りを踊って見せたいんです。ブラジルのサンバのようだよってみんな喜んでくれました。高校時代から冷めた気持ちでしか人と接することができなかったのに、Exchangeの活動を通して人の温かさが好きになりました。岸 頭で考えるばかりではなく、何でもいいからとにかく行動してみることから、自分のやりたかったことが見つかり、社会の見え方も変わってきたんですね。

玉崎 そうですね。活動は主に海外だったのですが、白井さんと同じで日本がだんだん好きになってきた。それで日本でも何か活動できることはないかと京都の、夜回りの会というボランティア団体に参加しています。夜、ホームレスの方を訪ねてお話を聞くのですが、あらためて家の大切さについて考えさせられました。ホームレスの人たちは、いくら仕事を探そうとしても、家がないと仕事なんか見つけれない。家がないから社会から弾き出されているんです。

中根 僕は児童相談所でボランティア活動をしてきました。以前、不登校児と連れ立ち





て、キャンパスに行きたときのことなんです。そのキャンパスに、誰とも目を合わせないおとなしい女の子が参加していました。ケースワーカーの人たちに聞くと女の子は家庭で虐待を受けているということでした。その内気な子が、みんなと遊んでいるうちに少しずつ変わってくるんです。料理を教えてあげると自分ができるようになる。本当は活動的な子なんだと分かったんですが、帰るときになつて泣き出した。家に帰りたいくない、ずっとここで暮らしたい」と。安らぎの場であるはずの家が、その子には苦痛の場ではなかったんですね。

## 自

由な時間の中で  
かけがえのない  
自分だけの目的を探す。

岸 田中さんは同志社の相撲部のご出身で、しかも全国優勝という勲章をお持ちですね。どうしてプロに行かず、教職の道を選ばれたのですか？

田中 同志社の相撲部時代は、先輩に土佐ノ海関、同級生に大塚関がいて、揃ってよく全国大会に出たものでした。卒業後は、プロへの道を進もうか、それとも指導者の道を選

ぼうか確かに悩みました。プロに入れば、華やかなスポーツライとも浴びるし、収入も違。土佐ノ海関に相談したところ、どちらの道を選んで後悔するし、納得もするだろうとアドバイスされました。そもそも私は、中学時代に相撲を教わった先生の指導に感銘を受け、その頃からの憧れでもあった同志社に入学し相撲部に入ったのです。全国優勝などしていなければきつとすんなり指導者の道を選んでいただろう。悩んだ末、教職の道を選びました。

玉崎 悩んだとあつたけれど、田中さんには相撲というベースがある。私たちにはそれがなかつたんです。

指方 結局そこだと思つたのです。先ほどセン病的の老人との出会いについて話しましたが、彼には信仰があった。だから世の中から存在意義をなく奪われてもなおいきいき



と暮らしていける。内面から支える信仰というものです。しかし、僕には両親から受け継いだ信仰はあっても、自分を支えるだけのものではなかつた。だから、悩んだりもがいたりしても、じゃあ何について悩んでいるのかと聞かれたら、はつきり言えない。ただ不安で、このままではいけないと思つている…。僕なりに考えてきたんですが、それは僕たちの世代は考ええる座標とどうか、型のようなものを失っているからだと思つんです。家という「コミュニティ」を失い、日本文化に根差した考え方を失ってきた…。



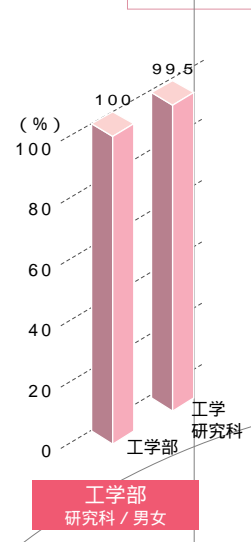
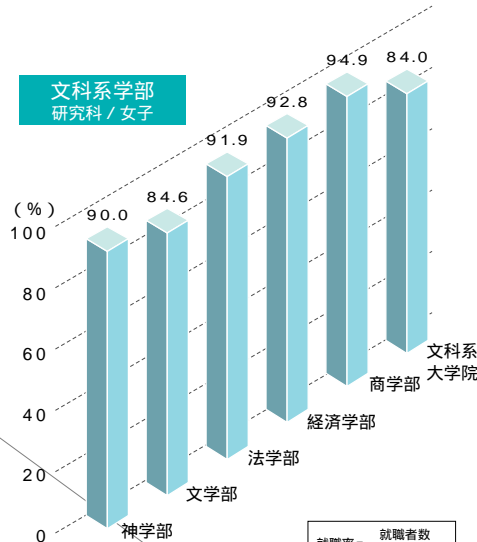
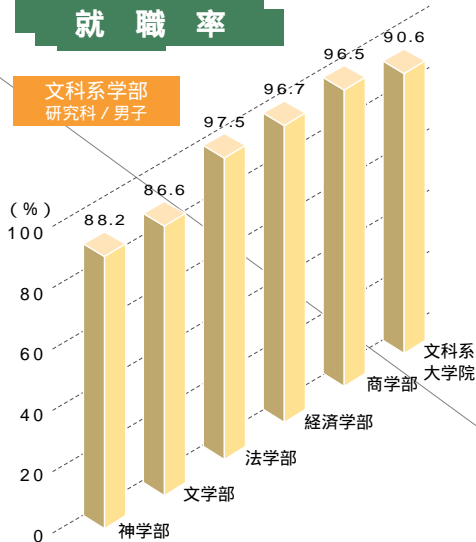
白井 確かにそういう面があると思います。海外で暮らして逆に自分というものが分りかけたのも、異文化の中に身を置いて日本人としての自分が浮き彫りになつたからです。だから海外体験を経て、僕は日本が好きになつたし、これからは日本の歴史や文化をもっと勉強したいと考えるようになりました。

岸 自分らしく生きるということとは、自分がそのために生きるに値する何かを持つことですね。しかし、自分が納得できる目的、そのために生き、そのために学ぶ目的というもの、それはそうたやすく見つかるものではないようです。しかし、学生には許された自由な時間がある。大学生に許されたこの自由な時間をいっぱい使って、生きるあるいは学ぶ価値のあるものを発見して欲しいと思います。

# データでみる同大生の 1998年度就職戦線

3年前の「氷河期」と同等に厳しかった98年度就職状況。企業が採用人員を絞り込んだにもかかわらず本学学生は健闘。採用上位企業に女子の進出も目立った。企業の規模別では大企業に74%が就職、本学学生の質の高さを示した。しかし相変わらず有名企業狙いが気になるところ。有名とは過去の業績への評価。もう少し未来企業へのチャレンジがあってもよい。

## 就職率

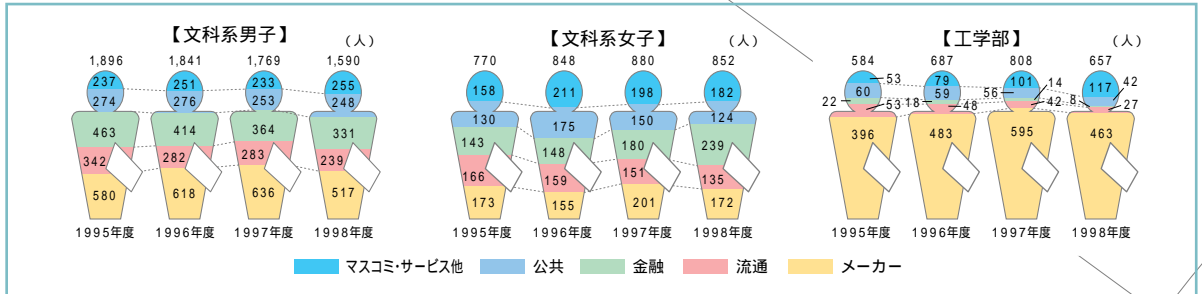


就職率 =  $\frac{\text{就職者数}}{\text{就職希望者数}}$

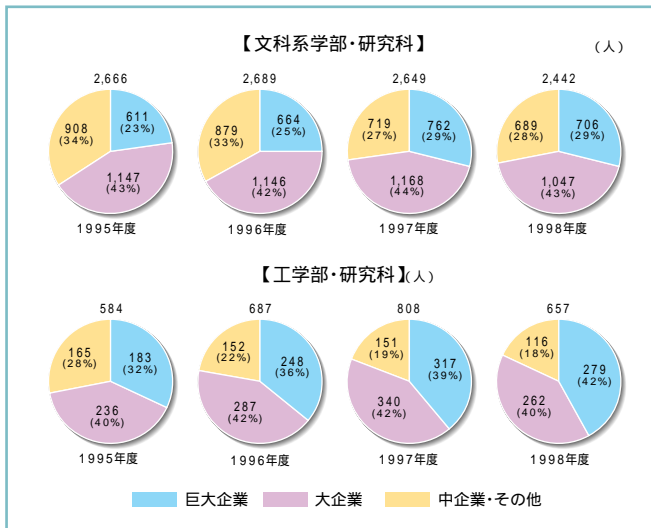
|                |   |                       |   |               |   |               |   |                    |   |
|----------------|---|-----------------------|---|---------------|---|---------------|---|--------------------|---|
| メイテック          | 6 | 日栄                    | 5 | オービス総研        | 4 | 情報技術開発        | 4 | 百五銀行               | 4 |
| ヤンマーディーゼル      | 6 | 日本精工                  | 5 | 大塚商会          | 4 | 住友商事          | 4 | 広島銀行               | 4 |
| アイシン精機         | 5 | 日本マクドナルド              | 5 | 沖電気工業         | 4 | 図研            | 4 | 富士ゼロックス            | 4 |
| アイフル           | 5 | 阪急交通社                 | 5 | オリエントコーポレーション | 4 | セブンイレブン・ジャパン  | 4 | ブレンセンター            | 4 |
| 伊藤ハム           | 5 | パナソニック                | 5 | 鹿島建設          | 4 | 竹中工務店         | 4 | 北陸銀行               | 4 |
| イビデン           | 5 | 東大阪市職員                | 5 | 関西電力          | 4 | 大王製紙          | 4 | 松下エーゲーシーマルチメディアソフト | 4 |
| イー・エヌ・イー・スカイバル | 5 | プロミス                  | 5 | 関西日本電気ソフトウェア  | 4 | タイセル化学工業      | 4 | 三谷商事               | 4 |
| エイチ・アイ・エス      | 5 | 北國銀行                  | 5 | 関西ペイント        | 4 | 第二電電          | 4 | 三菱信託銀行             | 4 |
| オムロンソフトウェア     | 5 | 防衛庁職員                 | 5 | 紀陽銀行          | 4 | 中国電力          | 4 | 三菱マテリアル            | 4 |
| 川崎重工業          | 5 | 明治生命保険                | 5 | 近畿日本ツーリスト     | 4 | 帝人            | 4 | 山善                 | 4 |
| 神戸製鋼所          | 5 | 山之内製薬                 | 5 | クボタ           | 4 | ディアンドアイ情報システム | 4 | 横河電機               | 4 |
| 滋賀銀行           | 5 | 読賣新聞社                 | 5 | 興亜火災海上保険      | 4 | 藤和不動産         | 4 | ワコール               | 4 |
| スズキ            | 5 | ワイケイケイ                | 5 | 神戸市職員         | 4 | 豊田自動織機製作所     | 4 | その他                | 4 |
| 積水ハウス          | 5 | 旭化成工業                 | 4 | 山陰合同銀行        | 4 | 豊田通商          | 4 |                    |   |
| タイセイ・コモディティ    | 5 | イタリヤード                | 4 | 山九            | 4 | 豊田紡織          | 4 |                    |   |
| ダイキン工業         | 5 | イトーヨーカ堂               | 4 | サンゲツ          | 4 | ニコン           | 4 |                    |   |
| 中央出版           | 5 | 岩谷産業                  | 4 | サントリーフーズ      | 4 | ニチコン          | 4 |                    |   |
| 東海銀行           | 5 | エス・エイ・ピージャパン          | 4 | 新日本証券         | 4 | 日本放送協会        | 4 |                    |   |
| 東京電力           | 5 | エヌ・ティ・エー・コミュニケーションウェア | 4 | 十六銀行          | 4 | 日本食研          | 4 |                    |   |



業種別内定状況

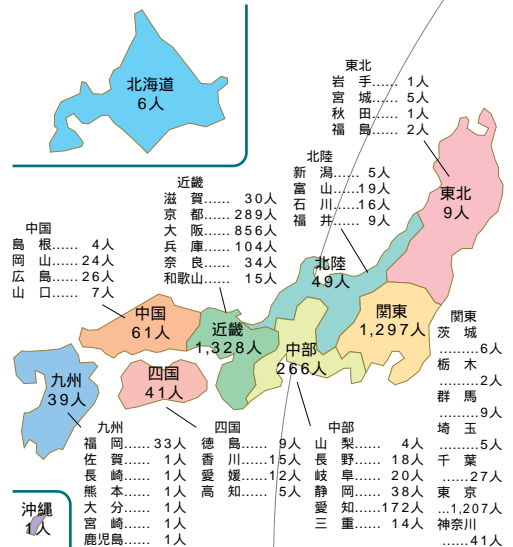


1998年度従業員規模別内定状況



(注) 巨大企業 = 従業員5,000人以上 大企業 = 500人以上 5,000人未満

地区別内定状況 (本社所在地)



主な就職先と人数

会社名と人数

|               |    |        |    |              |    |                 |   |                 |   |
|---------------|----|--------|----|--------------|----|-----------------|---|-----------------|---|
| 松下電器産業        | 41 | イズミヤ   | 13 | 安田生命保険       | 10 | ベンチャーセーフネット     | 8 | アンダーセン コンサルティング | 6 |
| 国家公務員 種       | 30 | オムロン   | 13 | イシダ          | 9  | あさひ銀行           | 7 | 伊予銀行            | 6 |
| 東京海上火災保険      | 27 | 凸版印刷   | 13 | 住友銀行         | 9  | インテック           | 7 | 大阪瓦斯            | 6 |
| 日本電信電話        | 23 | 日本電気   | 13 | 積水化学工業       | 9  | エヌ・ティ・ティ関西移動通信網 | 7 | 京都信用金庫          | 6 |
| 日本アイ・ピー・エム    | 23 | 日立製作所  | 13 | 日興証券         | 9  | オービック           | 7 | 京都みやこ信用金庫       | 6 |
| 京都銀行          | 22 | 村田機械   | 13 | 日産自動車        | 9  | 大垣共立銀行          | 7 | セイコーエプソン        | 6 |
| ジャスコ          | 20 | キヤノン   | 12 | ノヴァ          | 9  | 大阪府職員           | 7 | 全日本空輸           | 6 |
| 安田火災海上保険      | 20 | さくら銀行  | 12 | 富士通          | 9  | キーエンス           | 7 | ソフトウェア興業        | 6 |
| 三和銀行          | 19 | 商工ファンド | 12 | 村田製作所        | 9  | 京都中央信用金庫        | 7 | 第一生命保険          | 6 |
| 高島屋           | 18 | デンソー   | 12 | エヌ・ティ・ティ・データ | 8  | シャープ            | 7 | 大同生命保険          | 6 |
| 住生コンピューターサービス | 16 | 三菱重工業  | 12 | オリックス        | 8  | タカラスタンダード       | 7 | ダイハツ工業          | 6 |
| 日本生命保険        | 16 | 京セラ    | 11 | 三洋電機         | 8  | 第一勧業銀行          | 7 | 電通              | 6 |
| 東京三菱銀行        | 15 | 京都府職員  | 11 | 住友海上火災保険     | 8  | 中央信託銀行          | 7 | トヨタ自動車          | 6 |
| 南都銀行          | 15 | サントリー  | 11 | ダイエー         | 8  | トランス・コスモス       | 7 | 日本航空            | 6 |
| 三菱電機          | 15 | 大和銀行   | 11 | テイケイシイ       | 8  | 同志社大学           | 7 | 日本ユニシス          | 6 |
| 京都市職員         | 14 | 富士銀行   | 11 | 東洋情報システム     | 8  | 西日本旅客鉄道         | 7 | 百十四銀行           | 6 |
| 国税専門官         | 14 | 松下電工   | 11 | 日本交通公社       | 8  | 日本電産            | 7 | 富士火災海上保険        | 6 |
| 住友生命保険        | 14 | 大日本印刷  | 10 | 日本たばこ産業      | 8  | 野村證券            | 7 | 本田技研工業          | 6 |
| ローム           | 14 | 大和證券   | 10 | パナソニック       | 8  | ベネッセコーポレーション    | 7 | ミノルタ            | 6 |



井上 摩耶子さん 【1968年文学研究科修士課程修了】

1939年、京都府生まれ。同志社大学文学部社会学科社会学専攻卒業後、社会人を経て文学研究科社会福祉学専攻に進む。知的障害の子供を持つ母親たちのカウンセリングを始めるかたわら障害児運動にも参加。1990年、京都で開催された「フェミニズムから心理療法をどうとらえるか」というシンポジウムを契機に、フェミニストカウンセラーと名乗る。1995年、ウイメンズカウンセリング京都を16人のスタッフと共に立ち上げる。関西におけるフェミニストカウンセリングの先駆者として、性暴力裁判での被害者の代弁・擁護活動に精力的に取り組んでいる。現在、ウイメンズカウンセリング京都代表。

# フェミニストカウンセリングの 先駆者に聞く

志水 井上さんは、関西におけるフェミニストカウンセリングの先駆者でいらっしゃいます。が、そもそもカウンセラーの道に進まれた経緯からお聞かせください。

井上 私が大学を出た当時は、今日同様就職難でした。四年くらい市役所などでアルバイトをしていたんですが、これではだめだ、手に職をつけようと思い立ち、カウンセラーを目指して大学院に入りました。当時、同志社

の社会福祉にはドロシー・デッソー先生があられ、広い自宅を開放して養育クリニックというカウンセリングルームを開いていらっしゃいました。大学院生も先生の指導の下でカウンセリングをすることができました。これがカウンセラーとしての第一歩でしたわ。

志水 カウンセラーという職業は現在ほとんどボリューでなからたと思うのですが、あえてその道を志された動機は？

井上 私は、十四歳から二十六歳まで精神的に暗い青春期を過ごしてきました。なんで生きているのかとか、生きていることに意味があるのかとか、考えれば考えるほどどうしようもない深みに入っていく。さりとて家庭や社会環境のせいにもできず、多分それは自分のせいなんだと考えるとともに、そんな風に自分を追い込んでいく精神現象に興味を持ちましたからですね。



高津 十四歳から二十六歳まで、随分長い期間だと思うのですが、具体的にどのような悩みを抱えていらしたんですか？

井上 なかなか言い表せない面もあるんですがひとつには言葉というものにひかかりを感じていました。今、私は言葉というものを信じてカウンセリングをしています。その頃は言葉というものを信じていなかった。自分の感性なり感情というものは言葉で言い尽くせないものだと考えていたのです。その背景には、家庭における父権との衝突がありました。父は理屈の人ですから、議論では到底かなわない。くやしくて、あんななんかにいくら話しても、私の気持ちなんか分からないんだと捨てゼリフをはき、結局人は言葉でなんか分かり合えないんだと考えるようになった。二エリスティックな暗くて深いトンネルの中に入り込んでいったんです。

高津 トンネルを抜けられた二十六歳という、ちょうど大学院に進まれた時期ですね。井上 とにかく出口を見つけないかという思いが強かったのですが、大学院に入りそれを後押ししてくれたのが、鶴見俊輔先生のコミュニケーション論という授業との出会いでした。こんな面白い講義があるのかと思うほど

感動的で、講義に出るたびに世界が変わっていききました。十七年間自分の中で蓄えていた曖昧模糊としたものが、鶴見先生思想に触れて形になり始めたのですね。

志水 その頃はもうカウンセリングケースを持つていたのですか？

井上 そうです。私は田舎の高校を出てホテルで働き始めたばかりの女性を担当していましたが、彼女は強迫神経症を病んでいて、すごく孤独で、どうやって生きていけばいいのが悩んでいた。まるで少し前の自分を見る思いでした。カウンセリングのあと、マソウ先生にスーパービジョンを受けるのですが、あるときその席で、そんな受け答えをしているのはあなた自身が自分の心理的葛藤を克服できていないからだ」と指摘された。このひと言でふきれたんですね。何だ、臨床心理学的に見れば私の悩んでるそういうことだったのかと。一年半のカウンセリングを通してその女性もすごく元気になるまで築上げていった。言葉で分かり合えるはずがないと思っていた私と神経症の彼女とが、言葉を介して理解し合い変わっていくという貴重な体験をすることができました。

高津 フェミニストカウンセリングという、新しい分野へ進出されたのは？

井上 私が社会に出た当時は、大学紛争や障害児運動、ウィメンズ・リブなど、世の中はそれぞれ運動だらけでした。そんな環境も手伝って、私も知的障害児の運動に携わるようになりまして。障害児の母親たちとグループカウンセリングを行っていたんですが、ともすれば男性専門家たちは母親の育て方が悪いと指摘するんですね。それを聞いていると腹



が立ちてきましたね。男性のしかもエリート街道をまっしぐらに歩んできたような人たちに、精神的にも身体的にも発育の遅れた子供を育てることの大変さが分かるのかと、慍々たる思いでした。今なら少しは論理構築もでき、専門家たちに反論できるのですが、当時は男と女の役割分業の中で、育児を一手に引き受けさせられた擡げ句にいわれなき非難で傷つけられた母親の悔しさを共有するのがやっとでした。そして心無い専門家に傷ついた母親の声をいつか社会に訴えたいと思うとともに、フェミニズムという新しい枠組みの中で臨床心理学理論を捉え直すそうと考えるようになりまして。

高津 私が中学生の頃、クラスの男の子の名前が急に変わったんです。聞いてみると、兄弟が障害を持っていて、というので両親が離婚したらしいんです。

井上 どういった要因で障害児が生まれるのか分からないのに、そうした子供が生まれるとお前の血筋だとか、育て方が悪いとい





父親の一方的な言い分で、離婚に至るケースも多かったですね。

高津 性差別をテーマにカウンセリングをしていると、聞きにくいこと話にくいことがあると思うのですが…。

井上 フェミニストカウンセリングでは、自己開示が許されています。同じ性差別の被害者として共感を示したり、ときには差別をはね返して元気に生きているモデルとして自分を語ることもありませう。しかし、カウンセリングの場はあくまでクライアントが主役ですから、むやみにカウンセリングが自分を開示するのは好ましいことではありません。ただこの仕事を始めて、すごく自分が楽になりました。たとえば夫や恋人からの暴力を受けたクライアントとの面接でも、同じ女性として問題を共有することができます。かつて障害児運動をしていたときは、所詮私は健常者で差別する側なんだという思いが絶えずつきまわっていましたから…。

高津 フェミニストカウンセリングというところすぐセクシュアル・ハラスメントを連想してしまいますが、この問題をどうお考えですか？  
井上 男性からするとセクシュアル・ハラスメントの定義が分かりづらいようですね。以前、講演を依頼されてある大学を訪れた時のことなんです。職員の方から、どんな行動がセクシュアル・ハラスメントに該当するのかリストアップしていただかせんか」と頼まれました。男性のこのセクスのなさにはあらためて呆れてしまいました。ただセクシュアル・ハラスメントは女性がつくった言葉ですから分かりにくい面はあるのでしょね。だから無意識のうちに過失を犯してしまう。女性

の私たちからすれば、互いの関係性の中で捉えればどんな行為が該当するのかなど簡単に分かりそうに思うのですが。

志水 最後に、カウンセリングとしての井上さんの目に、私たちの世代はどのように映っているのでしょうか？

井上 すべてが他者志向といつか、こんなことを言えば相手を傷つけるんじゃないかと気にしている。裏返せば自分も傷つきたくないといふことですね。だから相手に対して一歩踏み込むことができない。踏み込めないからコミュニケーションの面白さも分からない。相手のことばかりを気にして、良い子でないと愛されないだと思っているんですね。私たちの頃のように反抗することには、もう価値はないのだろけど、そんなに他者はかり気にする生き方をしていたらますます窮屈になる。捨てるものは何も無いのだから、知らないことは知らないと言いたい。学生の時から許されるメチャクチャもあるのですよ、とアドバイスしたいですね。



### 社会的マイノリティとして女性の立場を考えさせられました。

井上さんのお話を聞きながら、つねづね女性ももっと自己主張すべきだと話している母のことを思い出しました。世代は違いますが、問題意識には共通するものがあるのでしょうか。翻って私たちの世代を考えてみると、井上さんが「良い子でいたいのでしょう？」と指摘されたように、社会に馴染みすぎていてと感じています。女性差別の当事者にならないと発言できないということのないように、しっかり男性社会と対峙していきたいものです。



高津 敦子さん  
【文学部社会科学科社会学専攻】  
3年次生

女性学、家族社会学に強い関心を抱く。家族で剣道に親しみ、現在は三段の腕前。部外連「剣練会」で副会長を務める。

### 人間としての悩みから出発した井上さんの主張は、説得力にあふれていました。

フェミニストということで、女性の立場を前面に打ち出されるのかと想像してインタビューに臨みました。しかし、内容は苦悩に満ちた思春期の話から始まり、社会差別に立ち向かう姿勢まで、自由と人権という人間の根源から出発されていることに共感しました。フェミニズムは男性を解放する運動でもあると言われますが、連綿として続いてきたこの社会の因習を断ち切るには、男性と女性、双方の意識改革が必要なのでしょう。



志水 伸行さん  
【文学部文化学科心理学専攻】  
4年次生

化粧心理を研究テーマに、化粧による外面の変化が心理面に及ぼす影響を体験的に探ろうと自らメイクに挑戦。メイクアップアーティストに技術指導を受けている。

# 同志社のこと。もっと知りたい、知ってもらいたい。

同大生が案内するキャンパス・ツアー

同志社大学の歴史やキャンパス内の重要文化財を紹介するキャンパス・ツアーの案内役として、法学部の四人がガイドをつとめる。案内する立場にありながら、彼らも一学生として今まで知らなかった同志社に出会い、純粋に自分の大学への探求心を抱きはじめている。

同志社のことを何も知らずに卒業するところだった。

今出川キャンパスの重要文化財や校舎を案内するキャンパス・ツアーは、一般の方に同志社の歴史や同志社の教育を紹介する場としての一役を担って、今春から実施している。ガイドメンバーは、法学部三年次生の久保さん、白濱さん、黒川さん、土佐さんの四人。田辺キャンパスでガイド経験のある久保さんが同じ法学研究会の仲間を誘ってメンバーを集めたという。

この春から今出川キャンパスに通い始めた彼らにとって、ツアーガイドの大役をこなすのは、やはり苦労も多かったようだ。「初めてガイドをしたとき、参加者から建物について質問をされても答えられず、とても悔しい思いをしました。だから次は答えられるように、よつこ、同志社の歩みや新

同志社の歩みや新



島裏に関する資料、また建造物の歴史的なエピソードなどを集めてガイド原稿を作り直しました」と白濱さん。おかげでキャンパス内の建物をじっくり見直すことができた。あらためて自分の大学を知ることができた。黒川さんも、このガイドをしなければ、同志社のことを何も知らずに卒業するところでした。建物一つひとつに意味があつて、その深さを知ることができるのは

役得ですね」と、今は苦労を乗り越えて、それぞれがガイドを務めるメリットの大きさを実感している。土佐さんは人前に出て話すことができるようになったと、自分のウィークポイントの克服にも役立ったようだ。



建物や歴史の奥深さを、もっと知ってほしい。

ツアーコースは、参加者の希望に応じて、重要文化財などの建物紹介に重点を置いた

と建物を含め図書館や教室など、キャンパス全体を回るコースの二つを設定。約一時間をかけて案内するが、やはり難しいのは時間配分。「一つひとつの建物に興味深いエピソードや歴史的背景がたくさんあるのに、時間が限られていて十分紹介できないのが残念。もっといろんな同志社を知ってもらいたいのに」と話す久保さんは、どの建物に時間を多くかけるべきかいつも悩まされるといふ。

僕たちのように、同大生に、同志社を再発見してもらいたい。

「僕たちがそうであつたように、同志社の学生であつても、同志社のことや建物の歴史をあまり知らない人が多いと思います。そんな人たちに、もっと学舎の良さを知ってもらい、同志社を再発見してもらいたい。できるなら学生を対象にしたキャンパス・ツアーを実施してみたいですね」とは久保さんの談。一度、同志社の学生たちにキャンパスのガイドをしたい」と話す彼らにとつて、キャンパス・ツアーの案内役は、同大生として同志社を見つめ直し、今まで知らなかった同志社を発見するいいきっかけとなつたようだ。



今出川キャンパス・ツアーのガイドをしてみませんか。興味のある方は気軽に広報課までご連絡ください。

# ディベートを通して

植田ゼミの活動全体の中で最も力を入れているのが、二泊三日のゼミ合宿で開催されるディベート大会だ。三つのテーマを選択し、ゼミ生が五、六人ずつ計六班に分かれ、立論・反論・弁論を各テーマ二時間にわたって白熱した討論を繰り返す。前回出されたテーマは、「金融機関における業務の自由化を進展すべきか」「郵貯を代表とする公的金融を民営化すべきか」「英国は、通貨統合に参加すべきか」。植田先生いわく、賛成派、反対派のどちら側に立つて論陣を張るか当日の抽選まで分からないため、ディベートに立つ各班は、あらかじめ両論の根拠をかなり準備しなければならないはず、議論は自ずと核心へ向かっていくという。

植田 今日集まった三人は、昨秋のディベート大会で、郵貯を代表とする公的金融を民営化すべきかをテーマに論争を繰り返した皆さんですね。

劉 僕は、賛成派の立場からディベートに臨みました。賛成の論拠としては、従来郵貯は資金を集めるだけでしたが、民営化により資金を自主運用できるようになれば、貸し渋りにより銀行から資金調達できなかった中小企業にも融資を受けられるチャンスが拡大し、景気低迷に歯止めがかけられるという点を強調しました。もちろん財政投融资でまかなわれている問題の多い特殊法人の経営が透明になることも付け加えました。

田中 僕と井上君は、反対側から立論した

わけですが、ひとつには効率を重視する民間金融だけになると過疎地における金融サービスというものが消滅するのではないかと危惧されますね。それに劉君が言う自主運用については、郵便局の公社化にもない運用面の自主裁量はかなり許されることになっていきますね。

井上 もう少し大きな視点で考えてみましょう。まず金融レギュレーションが進むとどうなるか。民間金融機関はホールセールを中心業務に据える金融機関と、リテール業務を中心に行う金融機関に分かれると言われています。するとリテールバンクにおいては、経営効率から考えて少額預金者から預かり手数料をとりたりするケースも出てくるわけで、少額でも



劉淳史さん

四年次生

ディベート大会において、新聞、経済誌や専門書を読む習慣が、とても役に立つようなものがあったか、たのが収穫でした。それに話すだけでなく聞き上手になるということも大切な要素だと実感しました。

井上隆徳さん

四年次生

普段は呼び捨てにしているのに、ディベートでは、さん、つわいひの意見をぶつ合っ、郵貯が良かったとよんで、逆に級友たちの隠された一面、うっか、生の思考に出会えたような気がします。



田中泰弘さん

四年次生

ディベート大会はとにかく大変でした。賛成側と反対側の両方の立場に立つて論点をまとめるにはならなかった。準備には相当時間をかけましたね。多くの資料を収集し、それを分析してまとめたときには、ルース・リーフが膨大になっていました。



植田宏文

【商学部助教授】



# 現代社会が抱える



# 経済諸問題を論じる

安心して貯金でき、利回りも期待できる郵貯も残しておいてよいのではないかと思います。

劉 金融ビッグバンに関して言うなら、銀行行政は大蔵省、郵便貯金は郵政省と、金融行政の所轄官庁が二つもあること自体が金融自由化の進展を疎外する要因にもなりかねませんよ。

田中 結局、問題の核心は劉君が冒頭で触れた、財政投融资をどう考えるかですね。

植田 そうですね。ともすれば、公的金融をつんぬんする場合、肥大化した大蔵省の権限を小さくしよう、そのためにも郵貯は民営化されるべきだというような論調が見られます。では郵貯が民営化された場合、どうなるのか？

劉 第二の国家予算と言われる財政投融资を失った大蔵省は、間違いなく権限を弱めますね。

田中 しかし、その一方で住宅金融公庫や国民金融公庫など、庶民の住宅取得や中小企業を支えてきた政府系金融機関は財源を失い、立ちゆかなくなりそうです。

井上 債券を発行しているところもあるにはありますが、政府系金融機関はほとんどが財政投融资でまかなわれていきますからね。

劉 うーん。僕は賛成派として発言していましたが、この政府系金融機関の役割を考えると、国民金融公庫や中小企業公庫など公



的金融機関から融資を受けている中小企業の資金調達先を、簡単に民間金融機関にシフトできるかと言われると、確かに難しい面がありますね。

田中 政府系金融機関の原資を税金でまかなうという意見もあるようですが、そうした場合、調達コストは今よりもっとかかると思えますね。

劉 ディベートでの立場は抜きにして、最終的には郵貯は民営化すべきだという僕の考えは変わりません。ただ議論を通じて分かったのですが、十年、二十年かかってもいいからこの問題は慎重に議論されるべきですね。ただでさえ景気の悪化中、拙速に郵貯の民営化を進めると实体经济に悪影響を与えかねない現状ですから……。

植田 基本はそついつことだと思えます。気をつけて欲しいのは、先ほど田中君が指摘したように郵貯の公社化が決まり、省庁再編により大蔵省も分割されることがはきりして、一見この問題を取り巻く状況は変質したように見えます。しかし、本質は変わっていない。そついつの意味では、ディベートにあたって皆さんに調べてもらったように、公的金融が無くなれば实体经济にどんな影響を与えるのか。あるいは金融システムが変われば、私たちの生活にどんな影響を与えるのかという視点を忘れないようにして欲しいものです。

# 1999年度大学予算について

財務部 経理課

本学はこれまでカリキュラムの改革や大学院教育の充実をはじめ、昼夜開講制やセメスター制の導入などの制度改革に取り組み、また1999年度から留学生別科を開設し国際主義教育の充実を図るなど、教育研究基盤の整備・充実を進めてきました。今後、新たな研究科の設置や学部・学科の新増設などに取り組みつつ、21世紀において本学の教育内容と研究水準が国際的にも評価されるよう、個性的で質の高い教育研究を展開することが求められます。

1999年度予算編成においては、とくに学部・研究科等研究費の増額および教育支援体制の充実を図るための予算の計上、マルチメディアを活用した情報教育環境の整備充実、学生関連施設設備の整備および奨学援助などの学生支援経費、国際交流の充実経費、広報活動の充実経費、さらに前年度より継続の学術研究資料の電子化および公開の促進に係る事業経費など教育研究環境の一層の充実を図るため重点的な予算を計上しています。また、本年度から始まる創立125周年記念事業に係る予算については、記念事業基本計画にもとづき所要額を計上しています。建設事業においては、扶桑館の小人教教育に対応した演習教室等の整備、情報教育施設の整備として寧静館地下に実習教室の新設、知真館にLAN敷設などの施設設備の整備をおこないます。一方、経常的経費については前年度予算を基準として計上し、管理経費については極力節減するものとし、教育研究水準の維持向上をはかるため、限られた財源の重点的、効率的な予算計上をおこなっています。

## 収支予算について (表1)

収入面では、学生生徒等納付金については、学費の漸増により一定の増収を見込むことができますが、補助金については、前年度に比較して、学術フロンティア推進事業および衛星通信活用プログラム等に係る補助金対象事業の整備完了にともない収入見込み額が減少となっていました。手数料、寄付金、その他の収入については、より一層の増収に努めることとしますが、予算編成方針にもとづき確実に収納が見込めるもののみ計上しています。借入金収入については、扶桑館改修建築費のうち8億円を新規借入しています。以上により、収入の部合計は293億円となります。

支出面では、人件費については、本学教学の発展のためには教員の充実が緊急の課題であり、教員の実質増員が可能となる予算措置をおこなうとともに、TA制度の整備充実費の予算増額を図っています。教育研究経費・管理経費・施設関係支出・設備関係支出および基本金組入額に係る事業内容は事業別予算のとおりです。借入金等の返済は、2年度にわたり返済を繰り延べた市中銀行からの借入金について償還計画にもとづき優先して償還するとともに、私学事業団からの借入金については定時償還および高利率の借入金の繰り上げ償還をおこなっています。なお、予備費については、田辺校地通学路周辺整備事業の大学負担見込み額を増額計上しています。以上により、支出の部合計は318億円となります。

以上の結果、1999年度消費収支差額は、25億円の消費支出超過となる見通しです。さらに、次年度以降の消費支出に充てる支出準備金に1億円を繰り入れ後の翌年度繰越消費支出超過額は、26億円増加し178億円となる見通しです。

## 事業別予算について (表2)

支出項目に係る主な事業内容は次のとおりです。

### 1 教育研究費

研究費は、学部・研究科における研究室研究費、個人研究費、学術資料整備充実費、学術奨励研究費、高度化推進特別経費など研究活動に係る経費です。

研究所経費は、人文科学研究所、理工学研究所、アメリカ研究所の研究活動に係る経費です。

実験実習費は、工学部、文学部心理学専攻の実験実習に要する経費です。

教育研究援助費は、学部・研究科の教育研究助成費、教学充実費、授業運営費、新規計上の遠隔講義運営支援経費などが主なものです。

情報処理教育研究費は、大型計算機・学術情報ネットワーク・マルチメディアシステム等の賃借料、情報処理用ソフトハードの新規取得費、情報化推進特別経費など情報処理教育に係る経費です。

学術情報整備充実費は、図書館の図書資料およびマルチメディア資料購入費のほか、貴重学術資料・新島研究資料のデジタル化および電子資料の利用環境整備などに係る経費です。

国際交流関係費は、学術交流協定校との留学生の受け入れ・派遣に対する奨学金、客員教員・留学生のハウス運営費および宿舍家賃補助制度、サマープログラム実施、新規計上の留学生別科の開設運営費など国際交流に係る経費です。

### 2 学生経費

奨学援助費は、学部・大学院奨学金、第2部・夜間主コース奨学金、新規計上の私費外国人留学生特別奨学金などの給付奨学金が主なものです。

学生生活助育費は、課外活動援助、就職活

動援助、学生健康管理、学生災害傷害保険など授業以外の学生生活に係る経費です。

### 3 施設・設備整備充実費

教室、課外施設、体育施設の改修およびプレゼンテーション設備教室の整備など施設設備の整備充実に係る経費です。

### 4 施設・設備維持管理費

冷暖房運転、守衛、清掃等業務委託をはじめとする施設設備の維持管理に係る経費です。

### 5 維持運営費

光熱水費、電信電話料、借地料など大学全体の維持運営に係る経費です。

### 6 一般管理費

ホームページ充実をはじめとする情報公開および広報誌発行など大学共通の業務運営費に係る経費です。

### 7 特別事業費

建設事業費として、扶桑館の演習教室整備、両校地の通信設備整備、嗣業館の中央監視盤改修、寧静館の情報処理教室整備、知真館のLAN敷設設備、新島遺品庫の改修整備などを計上しています。

### 8 法人経費

理事会、役員などの法人業務に係る経費、厚生施設に係る経費および創立125周年記念事業として記念講演会・地方・の開催経費などを計上しています。

### 9 基本金・準備金

第2号基本金は、将来取得する固定資産に充てるための資金です。

第3号基本金は、基金として継続的に保持し、その運用果実により教育研究活動の遂行を支援するための資金です。

組入計画にもとづき、第2号基本金に教学施設整備資金、情報基盤整備資金、研究装置設備等整備資金を、第3号基本金に同志社大学奨学金基金、国際交流基金などを計上しています。

1999年度収支予算書 (表1)

1999(平成11)年4月1日から2000(平成12)年3月31日まで (単位:千円)

| 収入の部           |                |                |             |
|----------------|----------------|----------------|-------------|
| 科目             | 予算             | 前年度予算          | 増減          |
| 学生生徒等納付金       | 22,751,970     | 22,123,590     | 628,380     |
| 手数料            | 1,184,800      | 1,184,000      | 800         |
| 寄付金            | 104,000        | 137,970        | 33,970      |
| 補助金            | 2,169,810      | 2,340,420      | 170,610     |
| 資産運用収入         | 551,820        | 610,130        | 58,310      |
| 資産売却差額         | 0              | 16,540         | 16,540      |
| 事業収入           | 95,160         | 95,160         | 0           |
| 雑収入            | 644,870        | 749,750        | 104,880     |
| 繰出金            | 8,140          | 8,650          | 510         |
| 分担金            | 148,690        | 171,500        | 22,810      |
| 帰属収入合計         | ( 27,659,260 ) | ( 27,437,710 ) | ( 221,550 ) |
| 第2号基本金取崩収入     | 300,000        | 100,000        | 200,000     |
| 当年度固定資産除却額     | 420,950        | 405,500        | 15,450      |
| 前年度基本金組入額繰延額   | 10,840         | 5,930          | 4,910       |
| 借入金等収入         | 900,000        | 990,000        | 90,000      |
| 基本金過年度組入額未組入額計 | ( 1,631,790 )  | ( 1,501,430 )  | ( 130,360 ) |
| 特定支出準備金取崩額     | 36,660         | 68,690         | 32,030      |
| 収入の部合計         | [ 29,327,710 ] | [ 29,007,830 ] | [ 319,880 ] |

| 支出の部           |                |                |               |
|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 科目             | 予算             | 前年度予算          | 増減            |
| 人件費            | 13,546,690     | 13,347,300     | 199,390       |
| 教育研究経費         | 8,247,980      | 8,150,180      | 97,800        |
| 消耗品費他          | 5,682,400      | 5,629,760      | 52,640        |
| 減価償却額          | 2,565,580      | 2,520,420      | 45,160        |
| 管理経費           | 864,530        | 919,430        | 54,900        |
| 消耗品費           | 779,640        | 833,020        | 53,380        |
| 減価償却額          | 84,890         | 86,410         | 1,520         |
| 借入金等利息         | 287,730        | 329,300        | 41,570        |
| 資産処分差額         | 0              | 10,220         | 10,220        |
| 徴収不能引当金繰入額     | 59,830         | 49,100         | 10,730        |
| 繰入金            | 0              | 0              | 0             |
| 予備費            | 300,000        | 100,000        | 200,000       |
| 消費支出合計         | ( 23,306,760 ) | ( 22,905,530 ) | ( 401,230 )   |
| 施設関係支出         | 1,656,000      | 966,240        | 689,760       |
| 設備関係支出         | 1,508,240      | 1,198,410      | 309,830       |
| 翌年度基本金組入額繰延額   | 18,180         | 10,840         | 7,340         |
| 借入金等返済支出       | 3,276,020      | 631,710        | 2,644,310     |
| 第2号基本金組入額      | 1,200,000      | 1,300,000      | 100,000       |
| 第3号基本金組入額      | 723,160        | 633,580        | 89,580        |
| 第4号基本金組入額      | 79,200         | 1,200          | 80,400        |
| 基本金要組入額当年度組入額計 | ( 8,460,800 )  | ( 4,739,580 )  | ( 3,721,220 ) |
| 特定支出準備金繰入額     | 89,850         | 35,420         | 54,430        |
| 支出の部合計         | [ 31,857,410 ] | [ 27,680,530 ] | [ 4,176,880 ] |

| 収支差額の部      |                |                |    |
|-------------|----------------|----------------|----|
| 科目          | 予算             | 前年度予算          | 増減 |
| 当年度消費収支差額   | ( 2,529,700 )  | ( 1,327,300 )  | —  |
| 消費支出準備金繰入額  | 78,050         | 525,630        | —  |
| 消費支出準備金取崩額  | 0              | 0              | —  |
| 繰入調整後消費収支差額 | ( 2,607,750 )  | ( 801,670 )    | —  |
| 前年度繰越消費収支差額 | [ 15,219,820 ] | [ 16,021,490 ] | —  |
| 翌年度繰越消費収支差額 | [ 17,827,570 ] | [ 15,219,820 ] | —  |

事業別予算書 (表2)

(単位:千円)

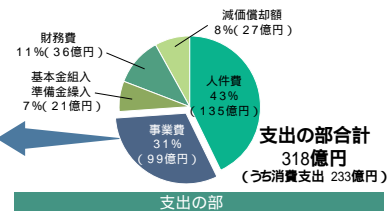
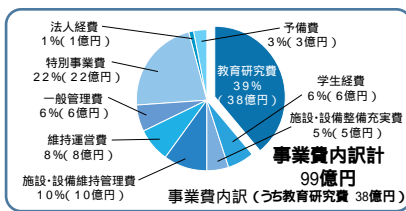
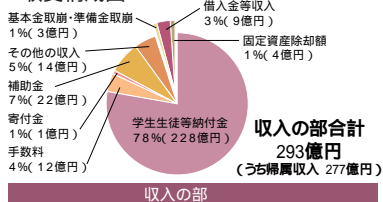
| 事業別予算書  |                | 予算額 |
|---------|----------------|-----|
| 人件費     | ( 13,546,690 ) |     |
| 事業費     | ( 9,926,280 )  |     |
| 基本金・準備金 | ( 2,110,390 )  |     |
| 財務費     | ( 3,623,580 )  |     |
| 減価償却額   | ( 2,650,470 )  |     |
| 支出の部合計  | [ 31,857,410 ] |     |

| 事業費内訳       |               | 予算額 |
|-------------|---------------|-----|
| 教育研究費       | ( 3,832,613 ) |     |
| 研究費         | 1,080,320     |     |
| 研究所経費       | 141,932       |     |
| 実験実習費       | 575,922       |     |
| 教育研究援助費     | 298,448       |     |
| 情報処理教育研究費   | 753,692       |     |
| 学術情報整備充実費   | 317,065       |     |
| 国際交流関係費     | 86,215        |     |
| 入学試験経費      | 359,281       |     |
| 教学事務運営費     | 219,738       |     |
| 学生経費        | ( 610,115 )   |     |
| 奨学援助費       | 336,600       |     |
| 学生生活助育費     | 194,984       |     |
| 学寮          | 78,531        |     |
| 施設・設備整備充実費  | ( 465,877 )   |     |
| 施設・設備等整備充実費 | 465,877       |     |
| 施設・設備維持管理費  | ( 1,046,048 ) |     |
| 施設・設備等維持管理費 | 1,046,048     |     |
| 維持運営費       | ( 781,513 )   |     |
| 通信費・光熱水費    | 781,513       |     |
| 一般管理費       | ( 562,115 )   |     |
| 一般管理費       | 499,923       |     |
| 教職員福利厚生費    | 62,192        |     |
| 特別事業費       | ( 2,176,000 ) |     |
| 演習教室整備 扶桑館  | 1,500,000     |     |
| 通信設備整備 両校地  | 420,000       |     |
| 中央監視盤改修 銅業館 | 120,000       |     |
| 情報教室整備 寧静館  | 40,000        |     |
| LAN敷設整備 知真館 | 36,700        |     |
| 建物改修整備 遺品庫  | 30,000        |     |
| その他の建設事業費   | 29,300        |     |
| 法人経費        | ( 151,999 )   |     |
| 予備費         | ( 300,000 )   |     |
| 事業費小計       | [ 9,926,280 ] |     |

| 基本金・準備金内訳    |               | 予算額 |
|--------------|---------------|-----|
| 第2号基本金組入額    | ( 1,200,000 ) |     |
| 教学施設整備資金     | 900,000       |     |
| 情報基盤整備資金     | 100,000       |     |
| 研究装置設備等整備資金  | 200,000       |     |
| 第3号基本金組入額    | ( 723,160 )   |     |
| 同志社大学奨学金基金   | 520,000       |     |
| 国際交流基金       | 200,000       |     |
| 指定奨学基金       | 160           |     |
| 新島基金         | 3,000         |     |
| 第4号基本金組入額    | ( 79,200 )    |     |
| 翌年度基本金組入額繰延額 | ( 18,180 )    |     |
| 特定支出準備金繰入額   | ( 89,850 )    |     |
| 基本金・準備金小計    | [ 2,110,390 ] |     |

| 財務費内訳      |               | 予算額 |
|------------|---------------|-----|
| 借入金等返済支出   | ( 3,276,020 ) |     |
| 借入金等利息支出   | ( 287,730 )   |     |
| 徴収不能引当金繰入額 | ( 59,830 )    |     |
| 財務費小計      | [ 3,623,580 ] |     |

収支構成図





一日は長い。しかし、一年は短く、まして一生  
なご一瞬である。

初めての在外研究といつとて、ドイツのボン  
大学で過ごした昨年度は、まさにこのことを私に  
実感させた。同じ年で専門も同じであった故言川  
知法さん(大阪市大)の急逝、そして北大時代に  
一緒したところのある秋野豊さん(筑波大)の訃報。  
あまりに痛ましい二人の死は、今自分が生きて  
いることの幸運と、それがゆえの責任を思わず  
にはいられなかった。生と死、そして人の運命が  
実に紙一重であることを改めて知った。

現在、私は倒産法を専門とする教師として多

# お！倒産(お父さん) の出番だ

がんばっていきまっしょい！

も高まった。誰もが倒産を自分の身近なこと  
感じるようになったのである。破綻金融機関の前  
に人々は長蛇の列をなし、高値でうかんばつた住モロ  
ーン等の債金に多くの人が苦しんでいる。幸いに  
して今は債権者としても債務者としても倒産に  
直接関係していない人であっても、それは紙一重  
の人生の偶然であると思っしてほしい。

倒産者に厳しくすれば倒産がなくなるわけでは  
ない。かつては、倒産法は債務者処罰の法体系  
であった。また、倒産現象を法の規律から野放  
しにして合理的に処理できるほど人間は冷静で  
もなれ、自力救済は弱肉強食の世界になる。

くの学生諸君と出会う。とりわけ、講義では教  
壇つまり高い所から物を言うことを生業とし、  
学生は先に生きた分だけ話題の多い先生の話を  
聞いてくれるはずであった。しかし、この前提  
は最近徐々に崩れつつある。というのも、社会人  
が再慶大学の門を叩くようになり、教師と学生  
の年齢の逆転現象も茶飯事となってきたからだ。  
彼女(で)もここで自分が先生として出会うたのは  
誠に人生の偶然にすぎない。むしろ私の方が彼  
(女)から学ぶ事、学びたい事が多くある。そし  
て、このことば、実は一般学生との関係でも同じ  
であることに改めて気づく。同窓社の学生の豊

## 佐藤 鉄男

【法学部・総合政策学系学際研究科教授】



1955年、北海道生まれ。中央大学(学部)卒業、法政大学(大学院・前期課程)・東京大学(大学院・後期課程)修了。北海道大学法学部助教授を経て、1995年同志社大学入社。専門は、民事手続法(特に倒産法)。著書として、『取締役倒産責任論』(信山社)、『ゼミナール破産法』(法学書院)などがある。

にある程度の倒産が必然であり、また人間が不  
完全な存在であることを前提に、倒産という不  
運を克服する知恵として倒産法はさらに発展を  
遂げる必要がある。おそらく、どんなに頑張っ  
ても一人の研究者で出来ぬことは徹々たるもの  
であろう。しかし、教師として自分の話を聞いて  
くれる学生がいることは、大きな励みになるも  
のである。加えて私生活で私はたまたま兄弟の  
父でもある。公私ともとうとうまた潰けたが一  
瞬の人生のためにその一日一日を大切にしたい。

かな才能と感性は多くの刺激を私に与えてくれ  
る。この出会いに酬いるには、せめて今自分がも  
っている専門知識を全力で伝えるしかないだろ  
うと日々思う。

さて、次に倒産法のことである。すなわち、企  
業や個人の経済的破綻現象を研究対象とするも  
のである。倒産と聞けば、誰もができれば避け  
たいと考えるだろう。他人の不幸を飯の種に  
するかの印象もあろう。たしかに、バブル経済崩  
壊後の倒産現象は、金融機関から消費者に至る  
まで蔓延し、件数・規模も尋常ではない。おかげ  
で、破綻処理キムとして倒産手続への関心

最近の疑問

この会社が危ない！電車内の週刊誌の広告が目に入ってくる。日本経済はフルはじけて青息吐息。国内の需要が期待できないので、円安を背景に、かつての洪水的輸出の再現。ニニニ(疑問)。三ヶ月の決算で、多くの企業が赤字を出した。金融関係のみならず、様々な業種においてアメリカ企業が進出、企業買収も進む。昨年の企業倒産件数も戦後最高。四月の失業率も史上最悪であった。しかし、日本の貿易黒字は随分五月五日だからとそのままのまじい様子が伝えられている。一方、東京株式市場はようやく一万七千円台を一時回復した。最近の株価の高騰は外国人投資家による活発な買いに支えられていると新聞は伝えている。

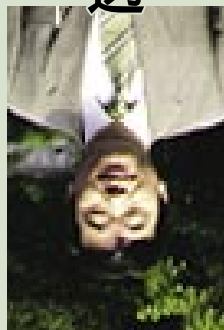
# 見方を 変えれば

になっても良いと思っている。中国を含め、東南アジアには二十億以上の人口がある。日本の人口の十五倍以上。優秀な人材も遙かに沢山いるはずだ。企業が自己の業績を考えるなら、人材として国籍は無意味であろう。企業に対する忠誠心も無意味である(その会社に魅力が無いなら数年で辞められても仕方がない)。君は何ができますか。何が得意ですか?。「私は材料力学が得意で、CADでは が使いこなせる。したがって設計に関する基礎学力があり、早い時期から開発で役に立ってる」。残念ながら、本学の学生の答えではない。ある東南アジアの学生の売り込み。こんな日が来ないとも限らない。先の売り込みをする学生と渡り合ったため、日本の大学で学ぶ学生はこうすればよいか。なぜ、新卒技術者の採用

何故? 日本国は大黒字だと言っ、でも、未曾有の赤字を計上している企業も少なくない。黒字というのはその国が儲かっていると言ったのではないのか。何故、そんな国の企業が赤字を出すのか。そんな国の企業がアメリカ史上最大の債務国、赤字垂れ流し国の企業に買収されなければならないのか。そのお金は日本の貿易黒字がアメリカに環流したものである。この半年、いろいろな人に尋ねている。しかし、誰も答えてくれない。経済では産業連関図の話くらいしか私は知らない。この連関図、線形の連立方程式でできている。経済は地域の枠を越え、絡み合いを増している。人の心も混ざり合って、簡単な数式で表されるものではない。



【工学部教授】



1948年京都市生まれ。同志社大学大学院工学研究科博士課程単位取得退学。工学博士。専門は材料力学。接着・複合材料の破壊と強度、CVTの伝動機構に関する研究。趣味は尺八演奏、西洋アンティークの収集。「材料力学」「構造解析特論」などを担当。

に関し、自由化してはいけないのか。

見方を変えれば

私の随写真、逆さまだとすぐに「材力の藤井だ」とは気づかれない。先日週刊誌の見出しに、大学がつぶれる日... などとあったような気がする。大学設置に対する規制は緩和されつつあるようだ。毎年(新しい)大学、学部、学科が沢山作られる。十八歳人口は毎年十万人ずつ減ってきている。今年の出生数から十八年後の受験人口も確実に予想できる。間もなく、百二十万人に減じる。したがって、定員割れを起す大学も出始めた。この危機を突破する特効薬は「大学民営化」株式会社にはいけな(株)。なぜ、大学は株式会社ではいけないのか。(株) 大学ではあかしかね。我々が海外旅行に行くとき旅

規制緩和

工学部には多くの企業から求人がある。就職担当者やOBによる会社説明会も田辺キャンパスでは活発だ。リスラの一方で、優秀な新人は確保したいとの考えから、採用人数が限られているだけに企業も優秀な人材の確保に躍起である。学生の出身大学も絞られてくる。しかし、数さえ確保すれば良いわけではない。人事担当者はフルの時のことを身にかけている。学生を伴ってある企業の方と会食した酒の勢いも手伝って、日本企業の採用のあり方に疑問を投げかけた。「日本で優秀な人材が採れないなら、外国人を雇っては?」。企業人いわく、やがてそうなる。日本の企業は海外に進出している。グローバルゼイションはボーダレスをもたらす。私も、そのよう

行社を選ぶ、信用できる、サービスのある旅行社の方が良い。料金が安い、ツアーの内容が良い、ホテルの部屋が良い、コンタクターが良いが選択のポイントであろう。期待と違った内容のツアーであれば、客は早速文句を言う。大学が株式会社であれば、入学した学生諸君の意識も変わる。学生はお客様。休講になれば、授業料を返せと文句も言いたくなる。何も教えて貰わず、ええ加減な試験で九十点が付くなら腹も立とう。ましてや、新卒採用が自由化されれば競争の世界に引き込まれる。日本の大学の偏差値も意味をなさない。安くて、質の高(サービス)を受けられる(株)。大学を選びたくなる。英会話学校は株式会社なのに、資格を取るために通う専門学校は株式会社なのに、見方を変えれば、世界は変わって見える。

# CAMPUS NEWS

キャンパスニュース

## 西尾 健司さん(経済学部 4年次生)が 全日本スノーボード学生選手権 で優勝!

今年3月、長野県北志賀ハイツで開催された全日本スノーボード学生選手権大会に、同志社の学生3人がチームを組んで参加し、スラローム個人で西尾健司さんが見事優勝、前田哲雄さん(経済学部4年次生)は5位入賞。スノーボードを始めて4年目で、学生の頂点の座に輝いた。スノーボードはファッション性も高く、お洒落なスポーツとして脚光を浴びているが、西尾さんは最初から「競技」として捉えていたという。

西尾さんがスノーボードを始めたのは大学に入ってから。その頃よくスキーに行っていた長野県のエコーバレーで、日本のトップスノーボーダーが練習していたのを見たのがきっかけ。そのせいか、遊びという感覚はなかったと話す。

来年には国体種目として認可される予定のスノーボード。このことは、もちろん西尾さんも意識している。そして、その瞳は国体出場をステップとして、オリンピックへと向けられている。来シーズンの目標は?との質問には、「来年2月に開催される全日本スノーボード選手権で優勝し、同志社在学中にプロになりたい」とハッキリと答えてくれた。今後の彼の活躍に注目したい。



## ファイナンシャル・プランナー講座 証券アナリスト講座開催

商学部設置の資格試験講座に今年度から「ファイナンシャル・プランナー講座」「証券アナリスト講座」が新たに加わった。

それぞれファイナンシャル・プランナー初級資格、日本証券アナリスト協会1次レベル試験合格を目指すもので、3年次生以上が学部を問わず受講できる。これらの講座は大学コンソシアム京都へ科目提供され、他大学の学生も受講可能である。また、一般市民の受講も歓迎している。

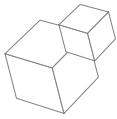
1999年度春学期のファイナンシャル・プランナー講座は、文学部5、法学部23、経済学部26、商学部57、工学部2、法学研究科3、経済学研究科1、商学研究科14、総合政策科学研究科2と他大学学生7と一般市民1の計141人が受講している。春学期の登録はすでに終了したが、ファイナンシャル・プランナー講座は秋学期にも募集をする。

1999年度商学部資格試験講座

| 講座名            | 講義回数                         | 開講日程   | 会場  | 講師                             | 受講料(円) |
|----------------|------------------------------|--|-----|--------------------------------|--------|
| ファイナンシャル・プランナー | 10回<br>15時間                  | クラス<br>(4/27-7/6・火)<br>クラス<br>(10/12-12/21・火)                  | 今出川 | 嶋 敬介<br>(フライツコン<br>サルティング)ほか   | 3,000  |
| 証券アナリスト        | 20回<br>30時間                  | 春学期<br>(4/17-6/26・土)<br>秋学期<br>(10/9-12/18・土)                  | 今出川 | 中村 茂<br>(検定証券<br>アナリスト)        | 6,000  |
| 中小企業診断士        | 12回<br>18時間                  | 4/17-7/10・土  | 田辺  | 角田宗照<br>(商学部非常勤講師・<br>中小企業診断士) | 3,000  |
| 3級商業簿記         | 8回<br>16時間                   | クラス<br>(4/14-6/9・水)<br>クラス<br>(4/15-6/10・木)<br>クラス<br>(秋学期/未定) | 田辺  | 上田幸則<br>百合野正博<br>未定            | 3,000  |
| 2級商業簿記         | 5回<br>(15時間)<br>8回<br>(16時間) | クラス<br>(4/17-6/5・土)<br>クラス<br>(秋学期/未定)                         | 田辺  | 為国淳史<br>未定                     | 3,000  |
| 2級工業簿記         | 8回<br>16時間                   | クラス<br>(4/12-6/7・月)<br>クラス<br>(秋学期/未定)                         | 田辺  | 中川 優<br>未定                     | 3,000  |

学外者の受講料は上記と異なります。





## 日本機械学会関西学生会卒業論文講演会で 本学学生11人が優秀講演賞を受賞

3月17日、関西大学において日本機械学会関西学生会卒業論文講演会(関西支部、関西学生会)が開催された。本講演会は、同学生会所属の約30の大学、工業高等専門学校(4、5年次)学生の卒業研究を発表する場として関西学生会(日本機械学会)が毎年この時期に開催している。昨年度同学会設立100周年を記念して、若い機械系技術者を育てるため、また機械学会の学生会員増強のため、同卒研講演会での優秀な講演発表を表彰するBest Presentation Awardsが設けられた。賞の審査には、大学および企業の一線で活躍する技術者、研究者の方々があたり、また、『学生の、学生による、学生のための講演会』を標語に大学院生が司会を担当し、審査にも加わる。発表者の発表の仕方や、質問への回答などが審査のポイントとなる。10件の発表を単位としてセッションが設けられ、それぞれのセッションにつき、1人に賞が与えられる。本年度は286件の講演申し込みがあり、28のセッションが設けられた。

「本学からは、小泉・辻内研、藤本・千田二研、坂口・松岡研、原・横川研、藤井研から41件の発表があり、発表件数でも神戸大学、大阪大学に次いで数多く、また28件の優秀賞受賞のうち本学の学生11人が優秀賞を受賞するなど、教育研究活動の活発な様子が伺えた」と講演会に出席した藤井透工学部教授は語る。大学等別の発表状況は以下の通り。



神戸大学(65) 大阪大学(57) 同志社大学(41) 大阪府立大学(40) 関西大学(29) 摂南大学(10) 京都大学(7) 立命館大学(7) 大阪市立大学(6) その他 大阪府立高専、滋賀県立大学、大阪産業大学、近畿大学、姫路工業大学、神戸商船大学、和歌山高専、奈良高専、明石高専



### [講演会]

6月5日(土) 12:15~13:30

講師:宗茂氏(旭化成陸上部監督)

テーマ:「マラソンの魅力 才能・能力を引き出すために」

場所:ラウンジ棟会議室201(田辺校地)

6月10日(木) 15:00~16:30

講師:仙頭(旧姓:河瀬)直美氏(映画監督)

テーマ:「見つめるといふこと 映画作りに魅せられて」  
(映画:「萌の朱雀」とこれから)

場所:神学館礼拝堂(今出川校地)

(学生会館にて「萌の朱雀」上映 17:00~、19:00~)

6月30日(水) 16:45~18:15

講師:栗秋正寿氏(山旅師)

テーマ:「アラスカの大自然に学んだもの 旅とイマジネーション」

場所:明徳館1階ラウンジ(今出川校地)



## ア ッ セ ン ブ リ ー ア ワ ー



## 学生健康保険・組合が 解散

学生の健康保持と増進をはかり、疾病負傷に対して相互に救済することを目的として保険事業を行ってきた同志社大学学生健康保険・組合が2000年3月末で解散することになった。学生健康保険・組合は1955年、当時の結核の流行や健康保険制度の未整備な状況の中で、治療費の負担により退学を余儀なくされる学生を救済しようと、私立大学では日本で最初に同志社大学で誕生した任意の保険団体。入学と同時に全員が組合員となり、医療機関での治療費の自己負担分が給付されるもので、保護者が加入する国や企業の健康保険と併用すれば、事実上治療費は無料となる。

今回解散に至ったのは、設立当時との社会環境の変化や学生の利用率の低さなどがその理由。組合の残余財産(推定2億数千万円)は大学に寄付され、来春から組合費を徴収せずに一定の事業を大学が継承する予定である。

詳細は決まり次第お知らせします。

## アメリカリサーチグループと 米国人が懇談の 大学院生が懇談

去る4月24日、ボストンの新聞社World Timesが主催する経済調査団が本学を訪れ、アメリカ研究科の学生と懇談の場を持った。World Times社Crocker Snow Jr.社長を団長とする一行(総勢20人)には米国財界の有力者が多数名前を連れ、4月18日から26日まで日本に滞在し、東京、京都、広島、福岡の各地を訪問した。日本での投資の可能性を探る目的の調査団ながら、「日本の将来について、若者がどんなことを考えているのか聞きたい」との要望が本学にあり、アメリカ研究科の6人の大学院生がこれに応じて懇談が持たれた。

懇談は昼食をとりながらの打ち解けたディスカッション形式で行われた。話題は現在の日本の経済情勢から男女雇用機会均等法にまでおよび、活発な意見交換のち一行は今出川キャンパスを見学して本学を後にした。懇談に参加した水口さんは「経済は専門外なので彼らとの立場の違いを強調したら、逆に多様な意見が聞けて参考になったと喜ばれました」と好感触をつかんだ様子。また小泉さんは、あまり準備ができなかったことを悔やみつつ「失業率が20%にも及んだオイルショック後の米国の経済不況に比べ、今日の日本経済情勢については、かなり楽観視しているようですね」と懇談の一端を話してくれた。



## 「友達百人 できるかな」 「できますよ」



上田 直樹さん

【文学部】 3年次生  
同志社コルフリュージュル合唱団

今春もオリエンテーション期間に多くのクラブ・サークルによる新入生勧誘合戦が繰り広げられた。その中で、新入生が手にしている紙袋に大きく書かれたコピーが目とまった。ここに込めた先輩からの思いを発案者の上田さんに聞いた。



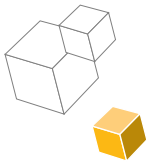
大学4年間で何をしようか。バイト?資格?それもいいだろう。しかし、それよりも大事なものを忘れてはいませんか。そう、生涯の財産となる『友達』です。先輩が言った「どれだけ多くの人と会って話をするかで、その人の幅はかなり違ってくる」と。確かに人間というもの、人と話をして、影響を受けて、恋をして、切磋琢磨しあって、初めて成長するもの。逆に言えばそうすることでしか、成長できないものかもしれません。

ところが最近「友達をつくるのが面倒くさい!」となる。まして『サークル』となると、入っても友人ができるとは限らないし、仮にできたとしても素晴らしい生涯の財産になるとは限らない。そこへいくと『資格』には確かな手応えがあり、就職に有利という目に見える御利益がある。そんなこんなでサークル離れは続き、『資格』がますます幅をきかす。しかし、手をこまねいているわけにはいかない。『友達』と『サークル』の素晴らしさを知るわれわれが、行動を起こさねば...。こうして生まれたのがこのコピーです。

### おわびと訂正

本誌NO.118号に誤りがありました。おわびをして、訂正をいたします。

18頁【新任教員紹介】右から2人目谷村 智輝さんの  
×誤「松山大学大学院 経済学研究科」  
正「同志社大学大学院 経済学研究科」



## 国際交流 合宿研修に 参加して



鳥居 えりかさん

【文学部】 3年次生  
留学生交流会所属



国際課主催の国際交流合宿研修は毎年5月と10月に行われる。今回の合宿は、京都府立ゼミナールハウスで5月8、9日に実施された。参加者は留学生23人と日本人学生14人。

合宿の最初は母国の文化や専攻分野など堅苦しい話題が中心で、どことなくよそよそしい空気が漂っていたが、そこは同じ学生どうし、時間とともに打ち解け、気がついたら以前からの友人のように語り合っていた。韓国や中国では日本の歌謡曲やドラマが放映されているらしくその話題で盛り上がり、お金の使い方の違い、日本の学生は服装にかけすぎ

らと思っているなど)から、アルバイトや恋愛まで話は尽きない。

異なった文化や価値観を持つ留学生と話すことはとても新鮮で、刺激にあふれている。私はこれまでの合宿を通じて、たくさんの友人をつくることができた。その中には帰国後も連絡をとり合っている人も少なくない。長期休暇を利用して留学生の母国を訪れ、案内してもらったこともある。文化や勉学の情報交換を超えて個人レベルの交流ができるこの合宿は、私に真の国際交流とは何かを教えてくれたような気がする。

今後、多くの留学生と同志社大生がキャンパスで出会い、交流が深められることを期待している。

## 太平洋釧路から、遥かなオホーツク海網走まで

ミニ紀行

### 同志社大学 ワンダーフォーゲル部

國井 章佳さん【商学部】 4年次生

創部43年を迎えるワンダーフォーゲル部は1998年度の集大成として、3月1日から14日にかけて北海道の釧路から網走にいたる約180キロをスキーと徒歩で行く、今までにないスケールの春合宿を敢行した。

途中には巨大な湖がある。山がある。恐ろしく長い距離に零下15度の寒さ。しかし我々は逆境であればあるほど燃えるのである。

この上なく自然が好きで常に自然と触れ合いながら活動してきたワンゲルだが、今回の合宿では、天然記念物に指定されラムサール条約で国際的にも保護された「釧路湿原」に入り、自然との触れ合い方を一から考え直すことができたことは意義深い。湿



原で目にしたエゾジカの群れが川を渡り、大空を悠々と羽ばたくオオワシやオジロワシの姿。なんとゆっくりと静かに生きていることが。人間が自然を保護するなんて身勝手すぎるとこの地へ来て実感することができた。

この合宿は多くの人の協力を得てようやく成功することができた。多くの力を分けてもらったことを心から感謝している。





歴史の中で翻弄された  
先住民の生き方

時代は十七世紀半ば、アルゼンチンとパラグアイ国境のイグレシアスの滝の上流に、イエズス会の宣教師たちによって建設されたケアララ下族の宣教村サン・カルロス村が、この映画の舞台である。この南米の僻地は、ヨーロッパ植民地主義のスペインとポルトガルの勢力争いの最前線であった。そしてローマ教皇庁とその下で働くイエズス会もまた世俗の権力とどのように教会の権威を保つかが問われた。ヨーロッパの強大国の思惑と教会の政策がこの僻地で凝縮する。主人公は奴隷商人であり弟殺しのメンドーサ、これに扮するのはわたしの好きな俳優の一人、ロバート・デ・ニロ。彼の弟殺しという癒されたい罪の重荷は苦行によつては癒されず、キリスト教化したこの宣教村の住民に受け入れられたことによつて癒され、そしてイエズス会に誓願をたて、修道士となる。

史実であるこの映画は、カトリックをいわゆる植民地西欧文明としてではなく、神を信じるという

ことは人間が真に人間となっていくという事柄として描いている。最初にこの地に入った宣教師は殺され、次いで入った宣教師は武器によつてではなく笛を演奏することによつて、当初、弓矢で迎えた村人と出会う。そして村人がキリスト教を受け入れていき共同体である教会を建設する。ここに成立した宣教村は、西欧文明としてのキリスト教ではない宗教共同体、真に理想的な人間としてのコミュニティとして描かれる。ヨーロッパの政治を背景にし、かつイエズス会をも統括するローマ教皇庁の代理である枢機卿をして、この村を、まるでキーンの園のようだと、言わしめる。

ヨーロッパの植民地国ポルトガルは奴隷売買を認め、スペインは認めない。しかし奴隷商人によつて両国の政策は実態として無意味となつていった。村で働くイエズス会の働きを管理統制する教皇庁もまた植民地の権益をめぐる両植民地政府と奴隷商人と無関係ではありえなかった。枢機卿はこの村の武力による制圧を黙認する。村人とともに生きてきたイエズス会の修道士の取った選択は二つに分かれた。ひとつは枢機卿の指示には従わず、キリストの教えに基づいて、神の掟を守りながら無抵抗のまま一方的な殺戮を受けて住民とともに虐殺される修道士。他方修道会の上司の命令に従わず、誓願を捨て破門を受けても住民とともに生きるために武器を取つて村人とともに抵抗し、ついに虐殺される修道士。

ここには史実にもとづいた歴史的映画でありながら、南米で始められた解放の神学、キリスト教基礎共同体の主題が背景に織り込まれており、キリスト教と世界の歴史を見直す鋭い視点が内在していると思つのは、わたしの深読みだろう。



『ミッシェン』

監督：ロランド・ジュロイ  
主演：ロバート・デ・ニロ

本学先生の  
新刊

(学術情報センター調べ)

犯罪学

瀬川晃著 成文堂 三、五〇〇円

ビジネス・エンタックスの基礎

経営管理の意思決定と文化の次元  
C・A・vanヘルセン著  
ほか訳 晃洋書房 一、五〇〇円

ユダヤングロサクソンに勝つ知的武装

先物文化の復興が日本の命運を決める  
杉江雅彦著 光陽企画 一、六〇〇円

総合政策科学入門

大谷賢 太田進一 真山達志 編著  
伊多波良男 郡島孝 棚橋佑治 石田光男  
瀧田輝己 三森定道 佐藤勝男 中田喜文  
金田重郎 執筆 成文堂 三、〇〇〇円

フィクションの諸相

一松山信直先生古希記念論文集  
南井正廣 編 山本妙 執筆 英宝社 五、一五〇円

商人と市場

一ネットワークの中の国家  
一  
榊山紘一 ほか編 布留川正博 執筆  
岩波書店 三、〇〇〇円

Internet Resources

:Elt, linguistics and communication  
北尾謙治著 英潮社 一、一六五〇円  
財閥解体 (GHQ日本占領史28)  
細谷正宏 ほか解説・訳  
日本図書センター 六、四〇〇円

イギリス (世界の社会福祉)

仲村優一 ほか編 井岡勉 執筆  
旬報社 八、二〇〇円

## BOOK

## 『フットボールの文化史』



山本 浩 著  
ちくま新書 一九九八年  
定価六〇〇円（税別）

## 文化を担うスポーツ

同志社と聞いて、まずラグビーを思い浮かべる方も少なくないであろう。また、昨年のサッカーワールドカップ・フランス大会を、アジア予選の時から一喜一憂しながら観戦された方も多いのではないだろうか。

本書を一読するだけでも、ラグビーやサッカーがその発生と発展を通してイギリスの宗教・教育・社会階層などといった文化や価値基準の形成に密接に関係していることに驚かされる。例えば、宗教との関係として、節制を重んじる四旬節前の禁食の場としての民族フットボールについて言及されている。また、パブリックスクールでシエントルンとしての社会性と指導性を育成するために、フットボールに必要なチームワークとキャプテンシーが利用されていたことや、社会的エリートと労働者階級との立場の違いがプロ化とアマチュアリズムの追求という対立を招いたことも示されている。このように、フットボールはあらゆる

面でイギリスの文化・社会の担い手となってきたことが述べられている。

ところで、ラグビーやサッカーに興味があったり、テレビや球技場で観戦したことのある方なら、次のような素朴な疑問がふと頭の中をかすめたことがあるのではないだろうか。サッカーとラグビーはどのように分岐していったのか？ラグビーの点数はなぜ一点ずつではないのか？ラグビーボールはなぜ球形ではなく楕円形なのか？本書を読み進めていくと、これらの謎も次第に明らかにしていく。

私が本書で最も興味を引かれたエピソードはラグビーボールについてである。ラグビーボールを初めて作ったのは、ラグビー校近くで靴屋を営んでいたウィリアム・ギルバートなる人物で、彼はラグビー校で行われるフットボールに使用するボールを、本業のかたわらで作成していたと記されている。テレビでラグビーを観戦していると、「GILBERT」と銘の入ったボールを目にすることがある。このギルバート社は、彼の店から発展した企業で、今も同じ場所でボールを製造し続けているそうである。そのようなことに注目しながらラグビーを観戦するのも、楽しみ方の一つと言えるよ。

昨年、日本中で盛り上がったサッカーワールドカップに続いて、今年十月にウエールズを中心にラグビーワールドカップが開催される。まだ見たことのない人も、この機会にラグビーに触れてみるのも良いのではないだろうか。

## 介護福祉入門

岡本民夫 ほか編 有斐閣 二、〇〇〇円

メディア用語を学ぶ人のために

渡辺武達 山口功二 編 世界思想社 二、四〇〇円

現代人権論 一人権の普遍性と不可譲性

深田三徳著 弘文堂 三、七〇〇円

リパティ・デザイン

「文化資本としての」よき趣味」

山田眞實著 創元社 二、五〇〇円

シユトックハウゼン音楽論集

シユトックハウゼン著 清水稜 訳

現代思潮社 四、二〇〇円

新約聖書への神学的入門

(NTD補遺2)

E・シユヴァイツァー著 小原克博 訳

日本基督教団出版局 五、五〇〇円

地域社会教育と生涯学習

国生寿著 深水社 二、五〇〇円

のびやかにかなたる新島襄と明治の書生

伊藤彌彦著 晃洋書房 二、〇〇〇円

地方都市の比較研究

鯉坂学 ほか編 法律文化社 九、五〇〇円

『新人』『新女界』の研究

(同志社大学人文科学研究所研究叢書31)

同志社大学人文科学研究所 編集

田中真人 水谷誠 天木志保美 執筆

人文書院 七、二〇〇円

石井十次の研究

(同志社大学人文科学研究所研究叢書32)

同志社大学人文科学研究所 編集

田中真人 ほか編著 同朋舎

一、八〇〇円

来日アメリカ宣教師

(同志社大学人文科学研究所研究叢書33)

同志社大学人文科学研究所 編

吉田亮 執筆 現代史料出版

三、八〇〇円

ありきたりの光景の中で  
障害者の働く姿を見る  
そんな社会の到来を夢見て。



障害児教育という美談が求められがちです。パブリックに出場したとか、車椅子マラソンで優勝したとかいった話題が期待されるのです。しかし、私が従事する知的障害児教育の場合、そうした美談は皆無というくらいはどおりません。同様に、私が何か崇高な理想を抱いて障害児教育に携わっているのでは、と期待されても困ります。ごく普通の学生生活を送り、卒業後は中学校の教員として奉職しました。その間に兆しらしいものがあったとすれば、障害者のボランティア活動をしてきた友人がいたこと。そしてよく彼やその友人たちの下宿を訪ねては、障害者運動やその社会の諸々について議論をしていくくらいでした。一度誘われるままに障害者キャンプに参加したことはありましたが、そのときはただ早く家に帰りたい、そればかりを考えていました。

## 第4回

## My Life. 「仕事」

が仕事を通して見た「社会」とは？  
この意義とは？

う先輩の声に耳を傾けながら、  
生生活の現実を考える機会にしたいものです。

中学校教員の仕事は大変でした。学校の荒廃が進み不登校が増え、今という学級崩壊も始まりかけていましたが、教員は一人ひとりの生徒にまで目配りできないのが現実でした。自分が描いていた教師像とは随分かけ離れていく現実には戸惑い、途方に迷うこともしばしばでした。そんなとき養護学校への転任を希望し実現することになりました。担任クラスに聴覚障害者を両親に持つ生徒がいて、その家庭とのかかわりを通して障害児教育に強い関心を抱いたのも事実です。

養護学校での生活に私は夢中になりました。自分が描いていた教員の理想の姿がこちらにあったと思えるくらい楽しく、妻の言葉を借りれば、私の天職だと思えるほど充実感にあふれていました。障害児といっても、自分で歯磨きさえできない重度の子から、日常生活には支障のない軽度の子までさまざまです。したがって教育はマン・ツー・マンが基本となります。心理的な問題で学校へ通えなくなった不登校児も就学していました。日本の教育システムは、一旦落ちこぼれてしまうと取り戻すのは事実上不可能だからです。そう考えると日本の障害児教育は、教育システムの補完的役割も担わされているとも言えるでしょう。子供たちのさまざまな症状と彼らを取り巻く家庭環境。私たちはつねに子供たちの視線で物を考え、教育しようと思っ掛ります。言葉を獲得できていない子とは、身振り手振りで語らい、軽度の子には将来の就職

活動に役立つよう、履歴書の書き方や面接の受け方を指導します。しかし、そこに美談を求めたりするのは禁物です。彼らもまたなまけたい、さぼりたいと考えるごく普通の人間であり、そこに美談を求めれば、一般の学校のようにいじめが生まれたりするので、知的障害児教育でとりわけ難しいのは、到達点をどこに置こうかという点です。就学年齢に達しながらまだ言葉を獲得できていない子は、生涯獲得できないものと考えておかなければなりません。この点については心を痛め、悩みもしましたが、結局ありのままを受け入れるしかないのだと分かりました。ただ光明が見えてきたのは、社会がそんな彼らを受け入れる環境を整え始めたことです。以前同志社のキャンパスを歩いていて、養護学校の卒業生が草むしりの仕事に従事している光景を目にしました。日常のありきたりの光景に、障害者が違和感なく溶け込んでいる姿を見て、この上なくうれしく感じました。

## PROFILE

大学卒業後、一年間中学校で教職に就く。その後養護学校に転じて現在にいたるが、この間総合政策科学研究科に社会人入学し、福祉政策について研究する。欧米流の社会コストを抑えた家庭介護の在り方にも理解を示すが、マンパワーを生かした日本の障害者福祉に期待するところが大きいようだ。とくに昨今、教職免許の実習で多くの若者が養護学校や福祉施設に訪れるようになったことを歓迎している。



濱口 雄二さん

【1983年法学部卒業】  
京都市立西養護学校教諭





社会人になって最初にぶつかった壁は、学生時代との意識のギャップでした。学生の頃と違うのはとかく評論家風に物事を見がちです。私はその傾向が特に強かったようで、不合理な点に気がつくとすぐ口に出してしまい、いつの間にか、文句いらいと、ありがた

私の学生時代は、バブルの絶頂期でした。就職活動も今日と比べると隔世の感があるくらい案で、多くの企業から内定をいただきました。その中から私が選んだのは、テンポラリーセンターという人材派遣の会社。創業以来十年にも満たないベンチャー企業でした。なぜ私がこの会社を選んだのか。ベンチャーという言葉も今ほど一般的ではなかったと記憶していますが、「社会の問題点を解決する」という企業スローガンがとても心に響いたからです。

ビジネスの面白さと  
難しさの狭間で、  
夢中に駆け抜けた  
十年でした。

My Job  
My Life

## シリーズ

『ONE PURPOSE』では、さまざまな分野で活躍する先輩を訪ね、毎号「私と仕事」をテーマにお話を伺っていきます。

# 私と「仕事」

My Job,

社会へ出てかれこれ？年。先輩たちあるいは「生きる」

歩んだ道も経験もそれぞれ違

将来の自分にふさわしいキャリア・プランと学

ないモデルを貼られてしまいました。こんなパンフレットや営業に持って出られない！と言った。じゃあ、作ってみなさい」という答えが返ってきました。会社は私たちに何でもしてくれる所と思っていたのでこの返答には驚きました。いざ自分で作ってみるとこれが難しいのです。以来、間違いや不合理な点を見つけても、すぐには口に出せず、一旦自分の中で温め、ソリューションを準備してから提案し実行するようになりました。

会社はどんどん大きくなり、私に対する会社の要望もそれにつれて大きくなりました。入社二年目にリーダーに、三年目には神戸支店の一部門を、六年目には大阪都心の重要拠点の立て直しに携わり、そして神戸支店長を経て九年目に新会社の代表取締役役に抜擢されました。私にとってはつねに新しいチャレンジであり、背伸びの連続だったと言えるかもしれません。大学を出たばかりの身で、社会人としては先輩である派遣スタッフの方のお仕事の相談にのったり、一年の経験で先輩の教育をしなければならなかったり、外に出れば、得意先の担当者の方はすべてキャリアも人生経験も豊富な方々ばかり。そんな中で会社の期待に応えて多くのことを学んでいくには、失敗を怖れているわけにはいきません。むしろできるだけ多くの失敗をして、その経験から多くのことを吸収していくと考えました。また管理職としてキャリアアップすればするほど自分一人ですること



はわずかなんだと学びました。私が入社した頃は、人材派遣というシステムの社会への浸透度はうすく、挑戦の日々だったと記憶しています。しかし、時代は変わりました。雇用市場の流動化は国家的な課題となり、企業側のニーズは不況下でも衰えませんが、これから社会に出ていく皆さんは今後経験されると思いますが、雇用する側と雇用される側の微妙なすれは多かれ少なかれ生じるものです。本当にしたい仕事につき自分の個性や能力を社会の中で十分に発揮できるように橋渡しをする。そこに私たちのビジネスの存在意義があるのです。

私は今年から、翻訳や通訳といったインターナショナルな技能を持つ派遣スタッフの方々に、雇用を創出するという事業に取り組んでいます。私の新しいチャレンジはまだ緒に付いたばかりですが、グロウバル化が叫ばれる今日、きつと大輪の花を咲かせてくれることを期待して頑張っています。

## PROFILE

心理学を専攻した日下さんは、カウンセラーへの道を模索した時期もあったという。社会人になった現在も大学時代の研究を思い出し、「A.H. マスローの欲求階層説」を引っ張り出して、派遣スタッフの心理を追確認するという。現在、株式会社/ソナ（旧社名：株式会社テンポラリーセンター）に勤務。今春からリಂಗル事業部のジュニアディレクターの職に就く。



日下 もえぎさん

【1989年文学部卒業】  
株式会社ソナ勤務

## ANNOUNCEMENT

第19回同志社大学外国文化週間

## オーストラリア:「多文化」という実験

オーストラリアといえばどんなことが頭に浮かんでくるでしょうか？  
「カンガルー」「コアラ」それとも「グレート・バリア・リーフ」？  
今回の催しでは、日本においてまだ余り知られていないオーストラリア文化の特質、とくに文化のグローバル化に焦点を当て、「多文化」というさまざまな実験を紹介してみます。

6月3日(木) [13:15~14:45] 講演 恵道館203教室

「アボリジニのメディア今昔：岩壁画からインターネットまで」  
久保 正敏氏 (国立民族学博物館教授/総合研究大学院大学教授)

6月4日(金) [17:00~19:00] 伝統音楽とジャズ 多目的ホール(田辺)

6月5日(土) [14:00~16:00] 伝統音楽とジャズ 同志社大学会館ホール(今出川)  
ルイス&ヤング  
オーストラリア先住民の伝統楽器ディジュリドゥとフルート/クラリネットのデュオ

6月9日(水) [13:15~14:45] 講演(英語) 恵道館204教室

「現代オーストラリア社会におけるアボリジニの地位」  
クリシー・グラント氏 (オーストラリア・ヘリテージ・コミッション 先住民・ヘリテージ・セクション ディレクター)  
「エンパイア」と「ボックス」 (アボリジニ制作の短編映画) 上映

6月12日(土) [13:00~14:30] 講演 恵道館202教室

「オーストラリア：同質社会から多質社会へ」  
ジョージ・フィールズ氏 (国際ビジネス・コンサルタント)

6月15日(火) [13:15~14:45] 映画 恵道館202教室

「最後の弾丸」 日豪共同製作ハイビジョンドラマ

6月17日(木) [15:00~16:30] 講演(英語) 恵道館203教室

「多文化社会と共和制：オーストラリアの未来」  
デヴィッド・カーター氏 (グリフィス大学助教授/国際オーストラリア学会会長/豪日交流基金理事)

6月18日(金) [13:15~15:15] シンポジウム 恵道館302教室

「オーストラリア：『多文化』という実験」  
リッキー・カーステン氏 (東京大学社会科学研究所客員研究員/シドニー大学講師)  
三浦 雅士氏 (文芸評論家) 関根 政美氏 (慶應義塾大学教授)

## プール学内一般開放のお知らせ

大学のプール(田辺校地・屋外)を下記の期間一般開放しますので、ご利用下さい。

期間：1999年8月2日(月)~31日(火)

但し、8月16日から20日及び土・日曜日を除く

時間：13:00~16:00

料金：1人1回300円

対象：同志社諸学校の学生・生徒及び教職員(家族を含む)

学生証を必ず持参して下さい。

## WOT企画春学期ファイナル!!

サラスヴァティ3コンサート ~無国籍ライブin Doshisha~

サラスヴァティ3は岡本博文(ギター) 田中峰彦(シタール:インドの伝統的な弦楽器) 山村誠一(パーカッション)の3人のユニット。  
ジャズ、ラテン、フュージョン、タンゴなど幅広いジャンルで迫力ある演奏を展開する岡本氏、カルカッタでシタールを学び、詩情豊かな演奏に定評ある田中氏、国内に限らずブラジル、モンゴル、韓国公演と世界で活躍する山村氏。彼らの生み出す、東洋のメロディと西洋のハーモニーを融合させた音楽はどこか懐かしいようで新しく、時にたおやかに時にワイルドに、聴くものを心地よい世界へといざないます。

7月1日(木)19時、大会会館ホールにて。無料。全席自由。一般参加可。

お問い合わせは学生課(Tel075-251-3270)まで。



## お便りをお待ちしています

『ONE PURPOSE』は、学生のみなさんと大学とのコミュニケーションをはかることを目的として発行しています。本誌に関するご意見や企画のご提案、日頃学生生活を送っている中で気づいたことや疑問に思うこと、また悩んでいることなど、ささいなことでも結構ですので、どしどし広報課までお寄せください。

## ONE PURPOSE

同志社大学通信119号

1999年6月1日(4・6・10・12月年4回)発行

発行 同志社大学 広報課

〒602-8580 京都市上京区今出川通丸東入

TEL. 075-251-3120 FAX. 075-251-3080

E-mail ji-koho@mail.doshisha.ac.jp

